

# 第4次高知市スポーツ推進計画

平成26年3月

高知市教育委員会

# 目 次

## 第1章 高知市スポーツ推進計画の基本的な考え方

1 趣旨	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画期間	1

## 第2章 策定にあたっての高知市の現状と課題

1 高知市民の健康・スポーツに関する意識	2
2 高知市民のスポーツ参加（関わり）の状況	5
3 スポーツ組織と指導者	8
4 スポーツ施設	13

## 第3章 推進計画の基本方針と策定の方向性

1 計画の基本方針	14
2 計画の目標	14

## 第4章 計画推進のための具体的施策

1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実	15
2 魅力ある「みる」スポーツの充実	16
3 感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実	17
4 気軽に利用できる「場所」の充実	18
5 スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実	19

## 資料編

○ 地区体育会一覧	21
○ 高知市スポーツ少年団加入数・加入率推移	22
○ 市内スポーツ施設一覧	23
○ 高知市立学校体育施設開放一覧	26
○ 高知市の障害者スポーツの現状	27
○ 策定経過	28
○ 委員名簿	29

# 第1章 高知市スポーツ推進計画の基本的な考え方

## 1 趣旨

スポーツは、心身の健全な発達や健康及び体力の保持増進に資するとともに、達成感や充足感などの精神的な充実や喜びを与えてくれます。また、人と人・地域と地域との交流を促し、地域の一体感や活力を生み出すなど、地域の活性化にも重要な役割を果たしており、地域社会の健全な発展に不可欠なものとなっています。

少子・高齢化の進展、ライフスタイルの変化、全国各地で頻発する自然災害などから、生涯学習、健康の保持増進、地域のコミュニティ、防災などへの関心がますます高まっています。また、市民のスポーツへの関わり方やスポーツに対するニーズが多様化し、気軽にスポーツに親しむことのできる環境の整備やライフステージに応じたスポーツ機会の提供などが求められています。さらに、スポーツを通じたコミュニティづくりやまちづくりなどもスポーツの果たす役割として期待されているところです。

高知市においては、これまで平成16年に策定された「第3次高知市スポーツ振興基本計画」を指針として本市のスポーツを推進してきましたが、計画策定からすでに9年が経過しています。またこの間、市町村合併により鏡村、土佐山村、春野町が加わり、エリアが拡大して地域の環境も多様に変化しています。

こうしたなか、国は平成23年に「スポーツ基本法」を制定し、平成24年には「スポーツ基本計画」を策定して、スポーツ推進の基本方針と総合的かつ計画的に取り組む内容を示しました。高知県でも、国の計画を基にして「スポーツを通して健やかで心豊かに、支え合いながらいきいきと暮らすことのできる社会」を目指して、平成25年に「高知県スポーツ推進計画」を策定しました。また高知市では、平成23年に生涯スポーツの推進を含む、地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本的な事項を定めた「2011高知市総合計画」を策定しています。

そこで、高知市では上記のことを踏まえ、市民一人ひとりがいつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも安全にスポーツ活動に親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するために、「第4次高知市スポーツ推進計画」を策定します。

## 2 計画の位置づけ

○本計画は、国の「スポーツ基本法」に基づく「スポーツ基本計画」と「高知県スポーツ推進計画」を参酌した、高知市のスポーツ推進に関する計画です。

○本計画は、「2011高知市総合計画」に示している生涯スポーツの推進を、より具現化する計画として位置付けています。

## 3 計画期間

計画期間は、平成26年度（2014年度）から平成35年度（2023年度）までの10年間とします。なお、中間年には進捗状況や社会情勢を踏まえ、見直しを行い、必要に応じて計画を変更します。

## 第2章 策定にあたっての高知市の現状と課題

### 1 高知市民の健康・スポーツに関する意識

#### ○健康に関する意識

健康状態は、「どちらでもない」「少し劣っている」の項目で全体の7割近くを占めており、高知市民が健康状態について肯定的でない点が特徴として示されました。特に、「劣っている」と感じたのは、40代と60代の女性に多く、男性よりも女性において健康状態が低いと認識されている傾向でした。また、20代から50代までの働き盛りの年代においては、「優れている」「少し優れている」と認識している者が他の年代よりも低いことが明らかになりました。

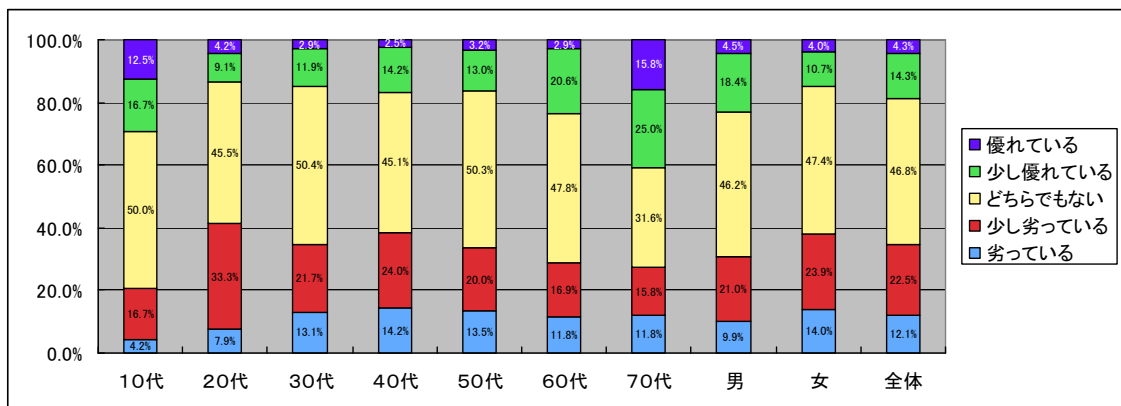


図1 健康状態

また、健康行動においては、約半数の者が「睡眠や休息」「趣味や娯楽」に気を付けている状況が示されましたが、「積極的に体を動かす」が、女性では、最も低い実践率であることが明らかになりました。嗜好品の項目のうち「お酒」「たばこ」に留意している市民が、前回の調査よりも増加しています。「積極的にからだを動かす」以外の健康行動に関するすべての項目において、男性よりも女性の実践者が多く、性差がみられました。

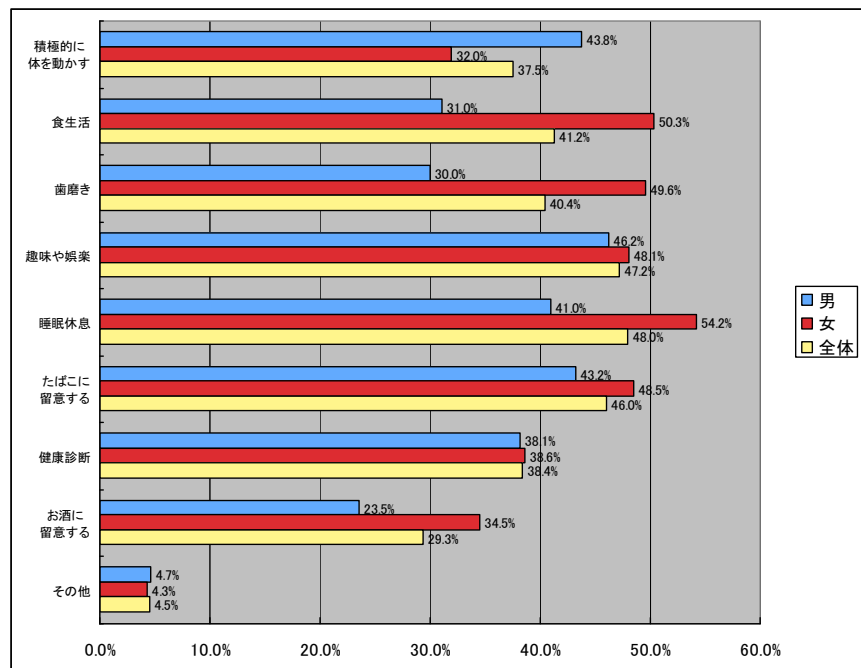


図2 健康行動

個人が感じる健康感をいかに高め、実際の具体的な健康行動につなげる方策が重要となってきます。

## ○運動・スポーツに関する意識

運動・スポーツをする理由として、「健康体づくり」「楽しみ」と回答した者が約半数に上り、次いで、「運動不足解消」が全体の4割程度を占めました。

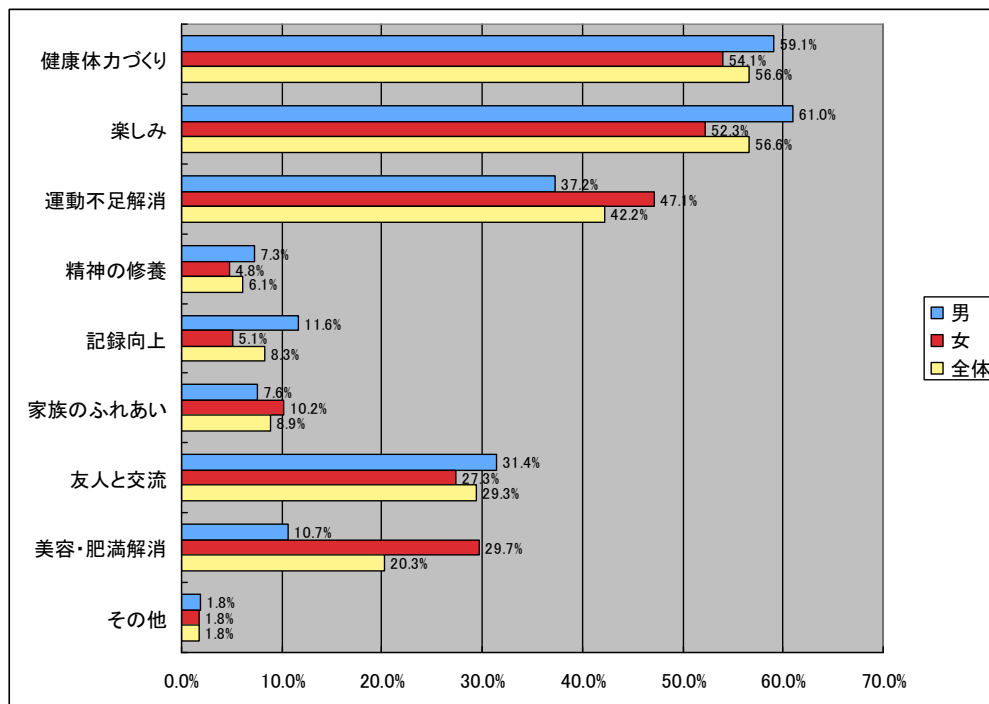


図3 運動・スポーツをする理由

運動・スポーツを実施するに際して不便を感じている点については、「場所がない」が最も多く示されており、多くの市民は実際の行動につながる外的環境が不足していると感じています。

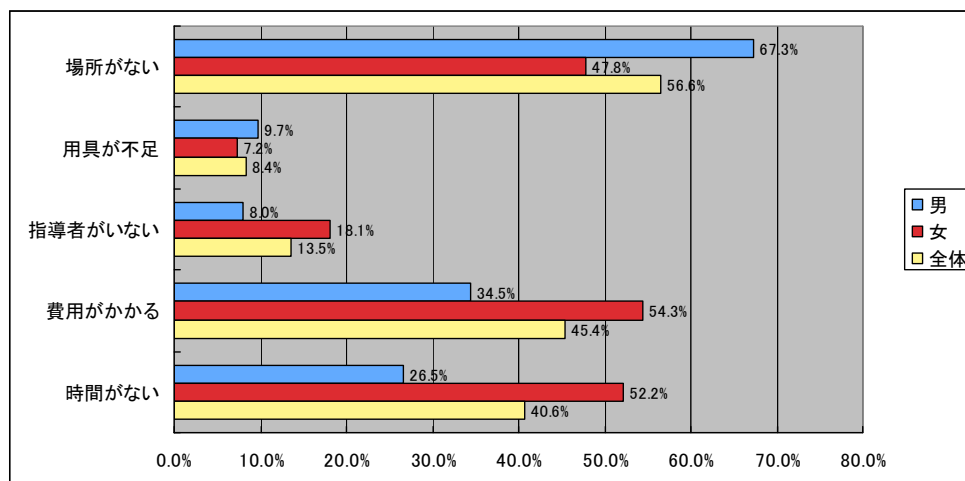


図4 不便を感じている点

個人の阻害要因としては、「忙しい」と回答した者が最も多く、特に20代30代の7割が、運動・スポーツをするための時間を取りづらいと認識している状況にあることがわかります。

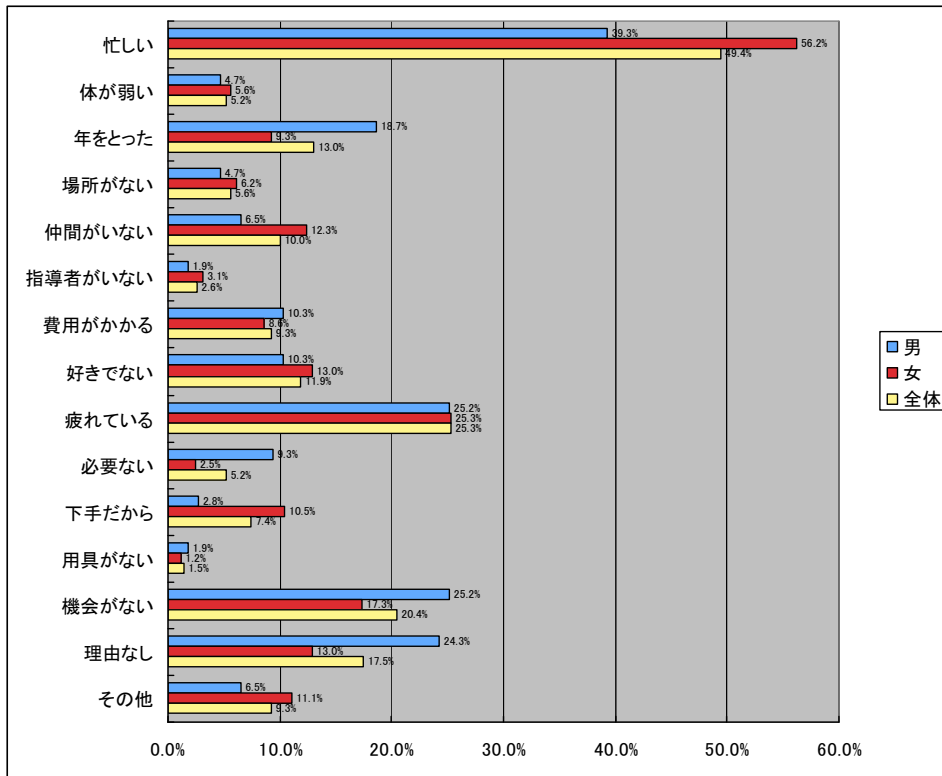


図5 運動・スポーツをしなかった理由

運動・スポーツにおけるニーズとしては、「ウォーキング」や「体操」「筋トレ」などのプログラムが多く示されました。年代や性差にかかわらず、健康を維持・向上させるための運動・スポーツのニーズが高くなっており、楽しみながら継続して健康体づくりが行えるプログラムの提供が求められています。

一方、40代までの年代においては、「野球・ソフト」「バレー」「サッカー」のニーズが高く、実施場所の確保も課題といえます。

さらに、「登山」は全体の約1割を占め、全国調査（笹川スポーツ財団、2012）と比較して約5ポイント高い結果が示されました。高知の自然を生かした運動・スポーツ環境も市民の運動・スポーツに対する意識を高めていることが推察されます。

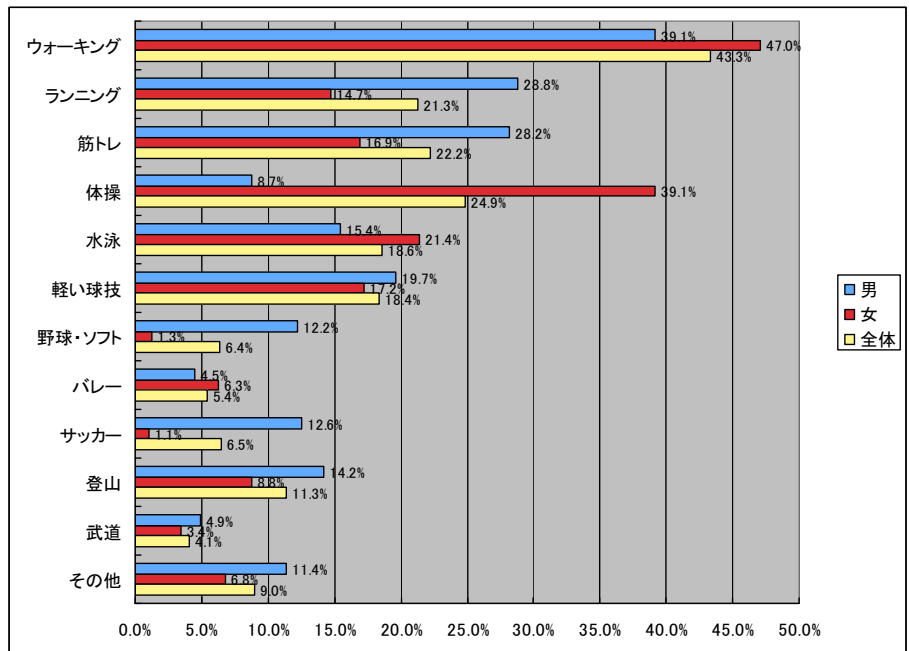


図6 実施を希望する種目

## 2 高知市民のスポーツ参加（関わり）の状況

### ○「高知市民の健康とスポーツに関する意識調査」より

文部科学省「スポーツ基本計画」は、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人（65%程度）、週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人（30%程度）となることを目標にしています。しかし、市民の週1回以上の実施率は33.9%であり、目標値を下回っています。1年間に運動・スポーツをまったく実施していない者が約3割と多く、50代女性では半数、40代と60代の女性では4割を超えている状況です。全体的な実施率の底上げとともに、特に40代以上の女性の運動機会を確保することが必要です。

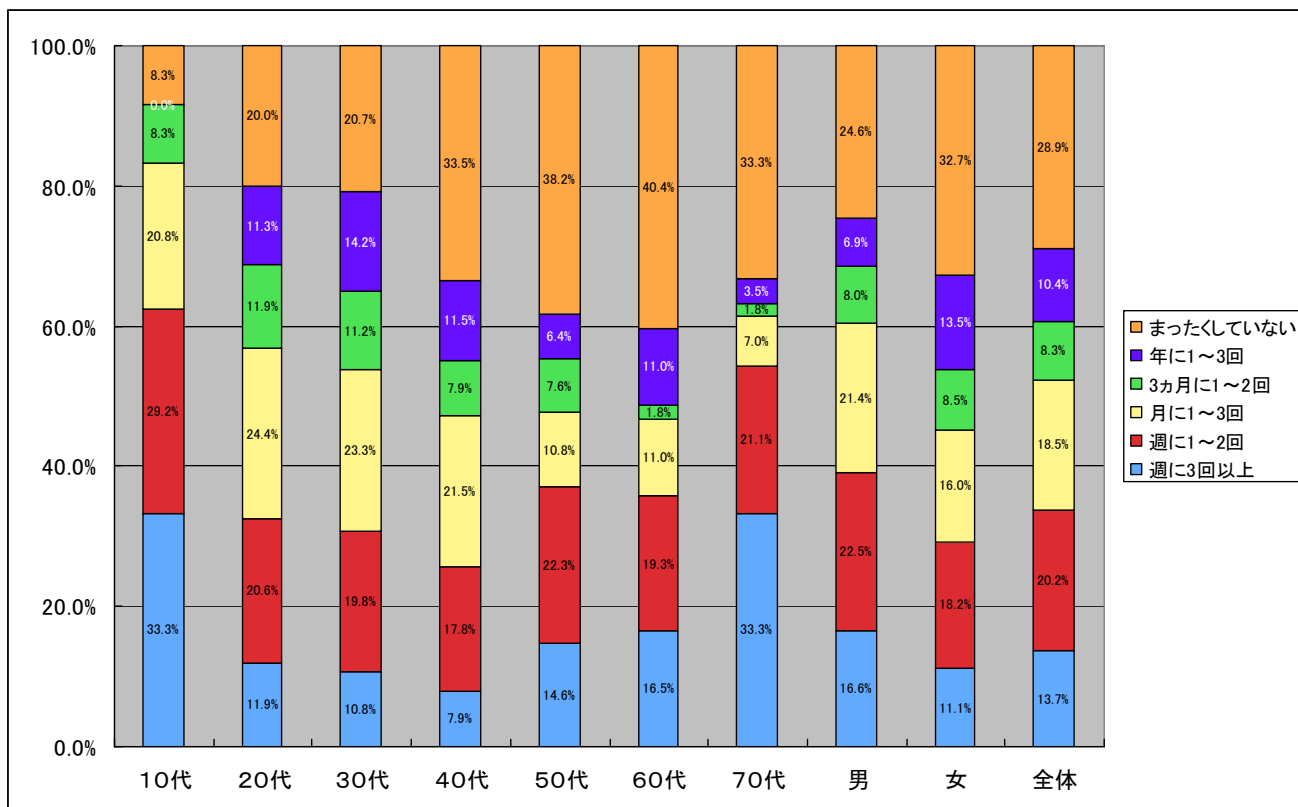


図7 この1年間の実施頻度

運動・スポーツの実施場所については、居住地近隣（自宅、道路、公園、広場）で活動している割合が最も高く、次に公共スポーツ施設（県・市スポーツ施設、学校、公民館）、商業スポーツ施設の順になっています。市民の約4割が「ひとり」で運動をしており、地域の仲間と活動している者は少数です。男女別にみると、男性は1人で、女性は家族と一緒に活動する傾向がみられます。

クラブやグループ（職場や学校、同好会、民間の会員制クラブ、地区体育会、総合型地域スポーツクラブ）に加入して運動・スポーツを実施している割合は、全体の約2割にすぎません。これらに加入する動機として、「健康体づくり」「楽しみ」「仲間づくり」への期待が大きいことがわかりました。種目では、競技系（野球、ソフトボール、バレーボール、テニス、バドミントン、フットサルなど）や健康づくり系（ヨガなど）を実施しています。未加入の市民に対して今後加入したいかどうかを聞くと、現状では「そうは思わない」という回答のほうが多くなっています。

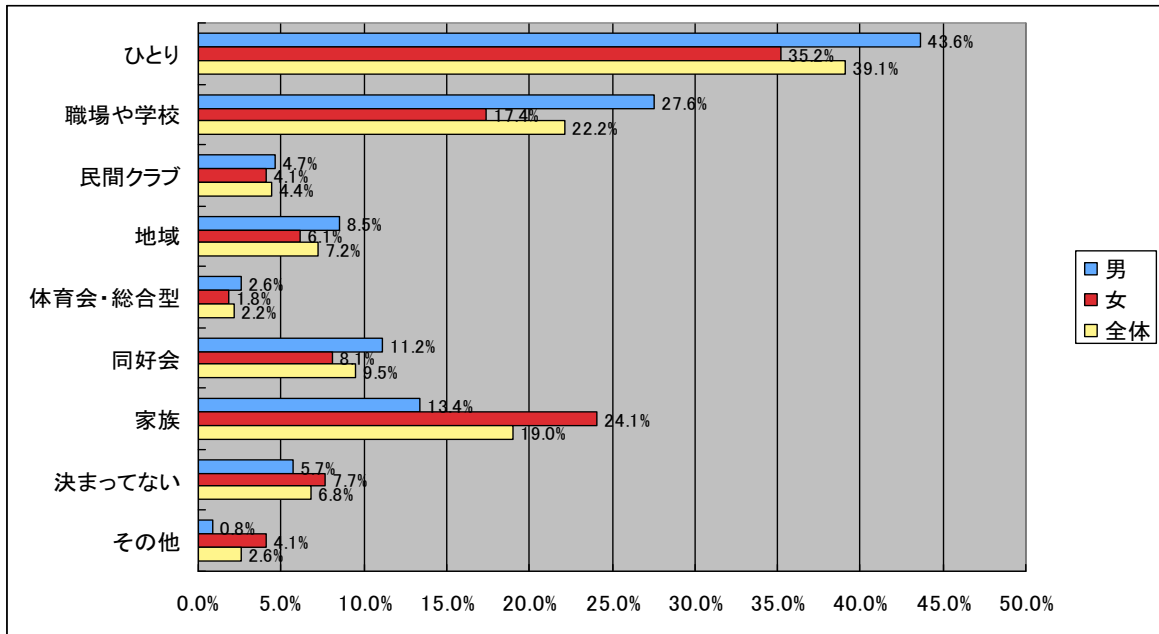


図8 運動・スポーツをする相手

長らく市民の主体的な地域スポーツ活動を担ってきた地区体育会に関して、これを知らない市民が6割以上になっています。50代では約半数に認知されていますが、特に30代以下の若い世代では7割以上が「知らない」と答えています。地区体育会の活動に参加している割合は1割程度です。入会していない理由のうち最も多いのは「忙しいから」ですが、一方で「特に理由はない」「機会がなかったから」などの理由も目立ちます。地区体育会の趣旨や活動内容を周知するための積極的な広報や加入の働きかけを行っていくことが必要です。

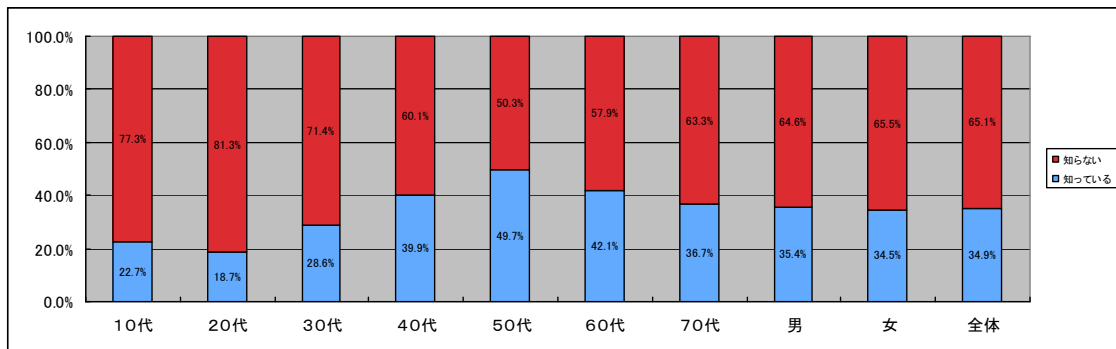


図9 「地区体育会」を知っているか

この1年間に地域の運動・スポーツ行事（地区運動会、スポーツ教室、体力テスト、各種大会など）に参加した市民は14.0%と少数です。参加しなかった理由に「知らなかった」を挙げた人が51.4%、「興味がなかった」が23.5%いました。ここでも20代30代の6割を超える若い世代に知られておらず、40代50代とは20ポイント以上の差があります。若い世代と地域とのつながりを強化することが必要です。

イベント情報入手の手段は、口コミ、回覧板、掲示板・ポスターが主であり、ホームページやブログ、SNSといった情報ツールが、まだ有効な広報媒体になっていないことがわかります。今後の参加の意思について、「わからない」という回答が半数を超えており、地域のスポーツ行事に参加することの意義について啓発することが必要です。



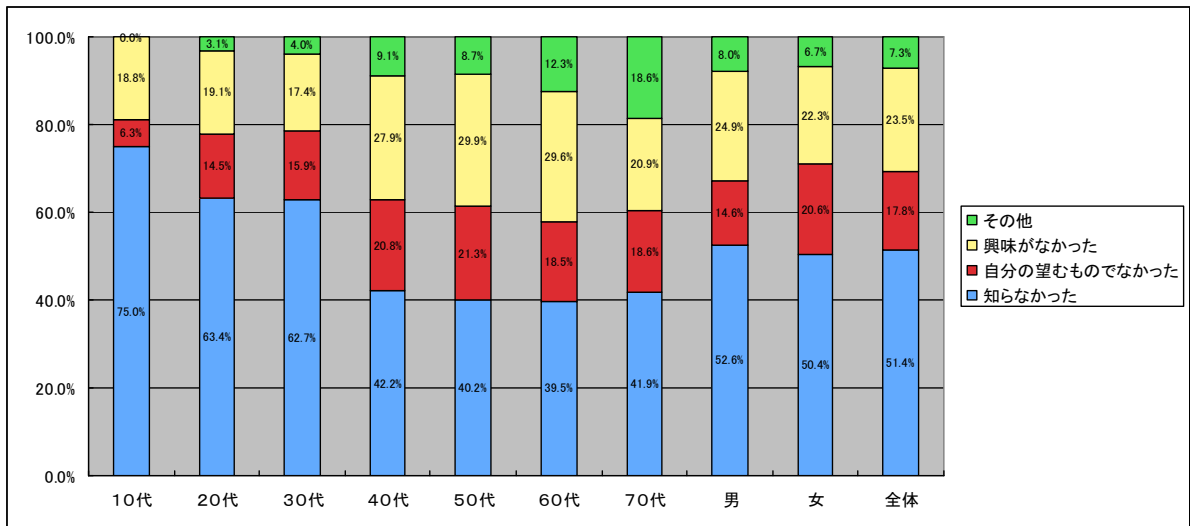


図10 参加しなかった理由

障害者スポーツについては、市民の認知度は高まってきているものの、一緒に活動した経験がある者は1割程度にとどまっています。それでも、若い世代に経験した市民が多くなっており、今後そのような機会が増えていくことが期待されます。

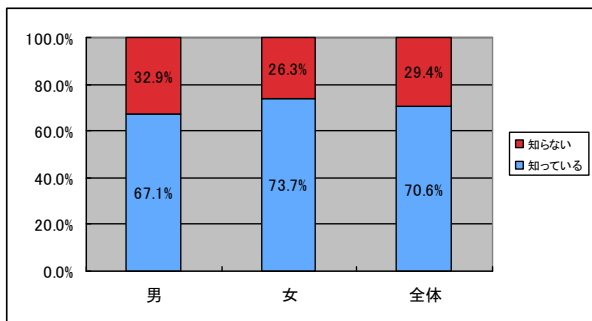


図11 障害者スポーツを知っているか

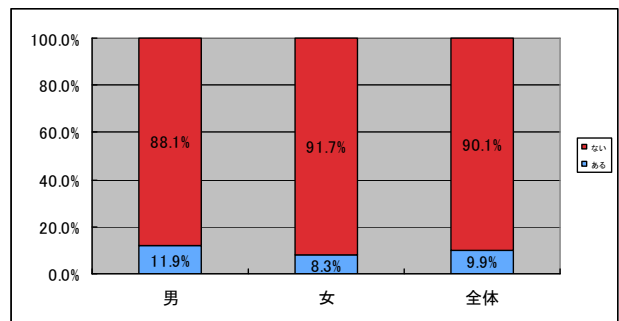


図12 一緒に運動したことがあるか

運動・スポーツ施設やスポーツ振興に対する要望の中で明らかになったのは、市民が身近な生活環境で安価に利用することができる公共スポーツ施設の整備を求めていることでした。そこでは市民のニーズに応える運動・スポーツ種目やプログラムなどソフト面の整備も必要です。情報提供も含めて、それらを充実させることが重要となってきます。

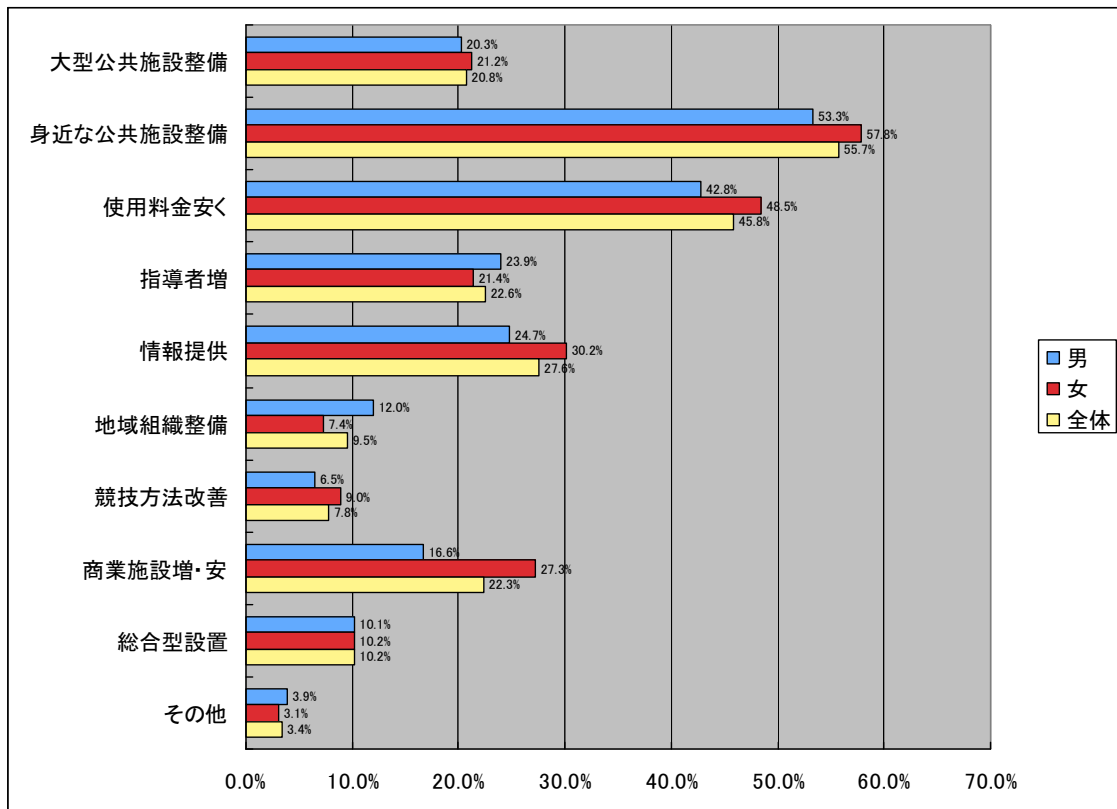


図 13 スポーツ振興に重要なこと

### 3 スポーツ組織と指導者

#### ○高知市のスポーツ指導者に関する現状

スポーツ推進委員やスポーツ推進指導員等の地域スポーツにおける指導者の高齢化・固定化が進行しています。指導者全体のうち約8割が50代以上の中高年であることから、若手指導者の育成が今後の重要な課題となります。

また、スポーツ推進指導員の有資格者のうち、定期的に指導しているのは3人に1人であり、現在まったく指導に携わっていない指導者は半数近くに上っています。

表1 指導者の年代

20代	0	0.0%
30代	14	5.4%
40代	36	14.0%
50代	67	26.1%
60代	101	39.3%
70代以上	36	14.0%
未記入	3	1.2%

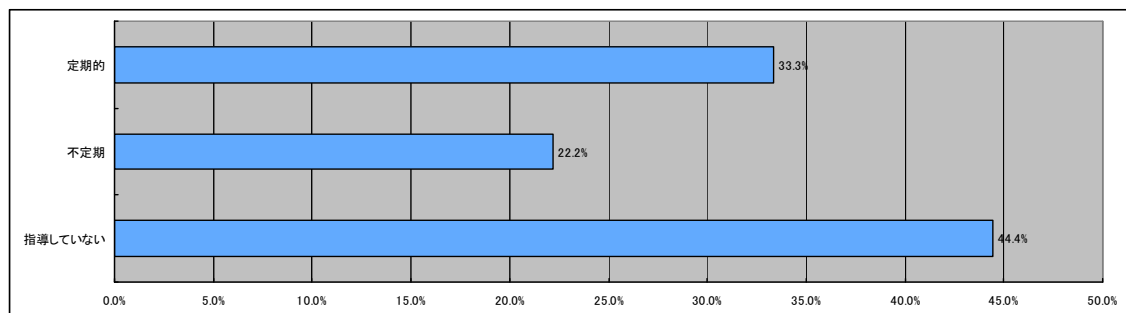


図 14 現在の指導状況

指導していない理由として、「忙しい」が全体の半数近くを占めるなど時間的要因が挙げられました。さらに、女性指導者においては「機会がない」「自信がない」の項目において男性よりも高い割合が認められており、女性の指導機会を増加することや指導に対する自信を高めるための学習機会の確保が必要と考えられます。

表2 指導していない理由(男女別)

	機会がない	忙しい	人間関係が わずらわしい	自信がない	その他
男	12.3%	49.2%	0.0%	4.6%	33.8%
女	19.1%	40.4%	2.1%	14.9%	29.8%
全体	15.2%	45.5%	0.9%	8.9%	32.1%

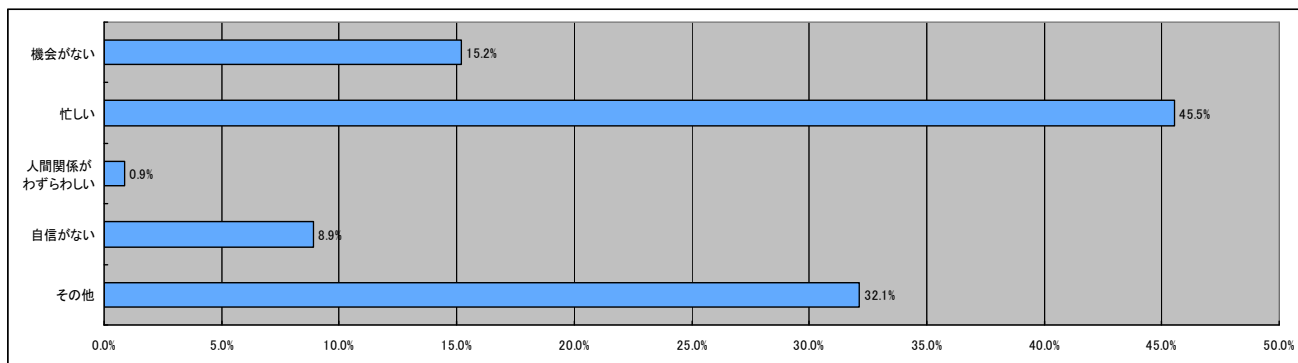


図 15 指導していない理由

現在、指導している種目は、「バレーボール」が最も多く、「ソフトバレー」「ソフトボール」と球技が続きました。これらの種目を実施するためには一定の場所と仲間が必要で、合理的かつ効率良く施設を運営することが重要と考えられます。

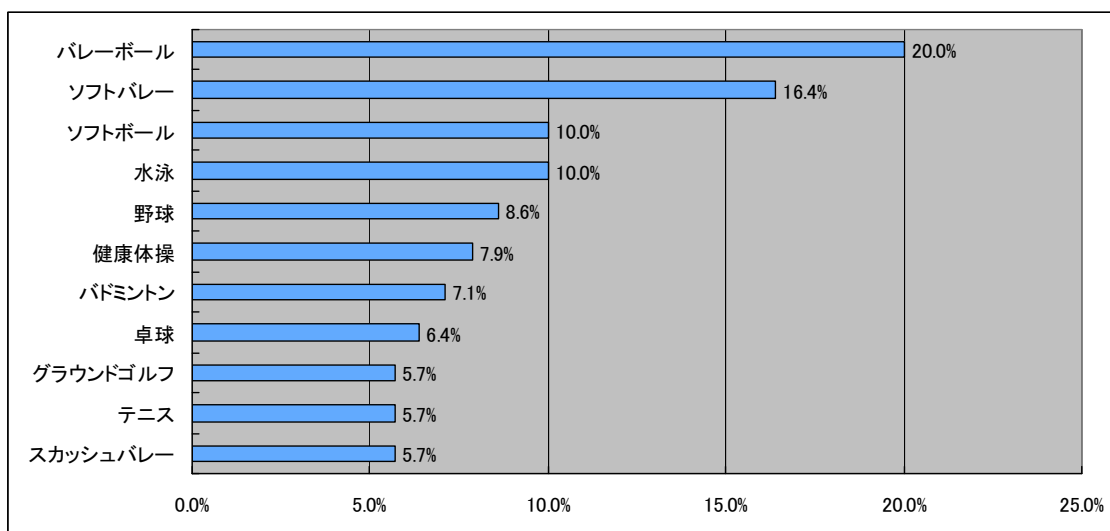


図 16 指導種目

資格を取得した動機は「勧められて」が約半数で、積極的・主体的に資格を取得しようとはしていないことが推察されます。次いで、体育会活動への参画や地域スポーツ振興に興味を抱いていることなどが資格を取得した動機として挙げられました。

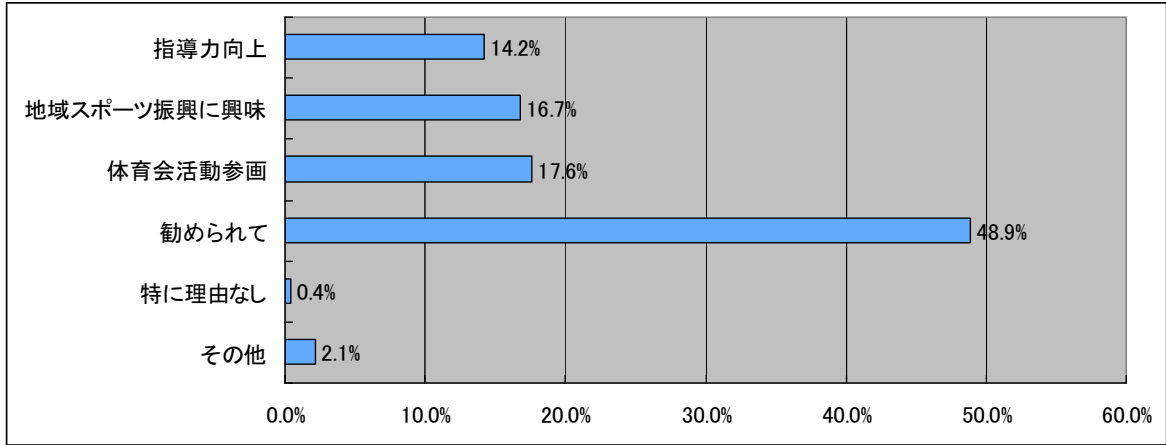


図 17 スポーツ推進指導員資格の取得動機

男女別にみると、体育会活動参加を動機としている男性は、女性の3倍近くに上ることが明らかになりました。男性指導者の資格取得と体育会での活動は、密接なつながりを持っている状況が推察されます。

しかしながら、実際はスポーツ推進指導員のうち約2割は地区体育会で活動していません。地区体育会のスポーツ活動やイベント等における運営の手伝いなどを希望している指導者もいることから資格取得に止まらず、実際の指導や運営面を含めた活動の場と機会の充実が課題であると考えられます。

表3 スポーツ推進指導員資格の取得動機(男女別)

カテゴリー	指導力向上	地域スポーツ振興に興味がある	体育会活動参加	勧められて	特に理由なし	その他	合計
男	13.0%	18.5%	23.3%	43.8%	0.7%	0.7%	100.0%
女	16.1%	13.8%	8.0%	57.5%	0.0%	4.6%	100.0%
全体	14.2%	16.7%	17.6%	48.9%	0.4%	2.1%	100.0%

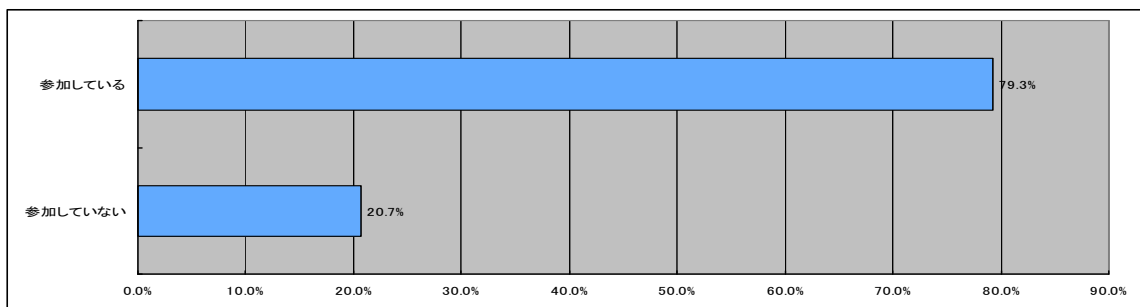


図 18 体育会への参加の有無

また、資格取得による効果については、8割以上の指導者において効果があったと実感しています。その内容として、「団体内の役割・活動が広がった」が最も多く示されており、「指導力が向上する」「指導者として信頼される」などの理由も挙げられました。資格は、指導者が活躍するフィールドを広げ、実際の指導力にも影響を与えている状況が示唆されます。

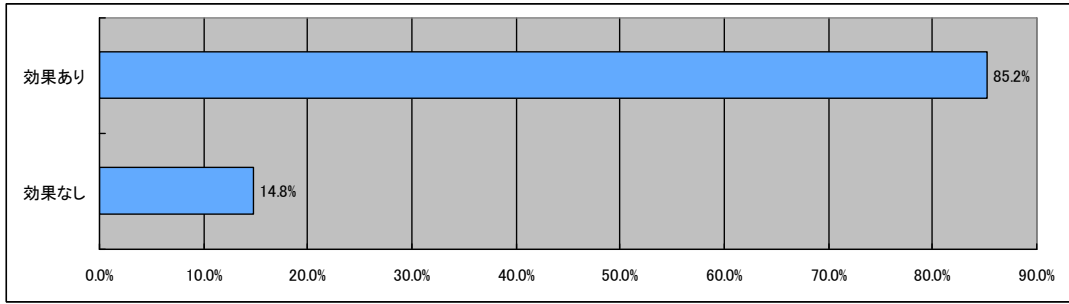


図 19 資格を取得した効果の有無

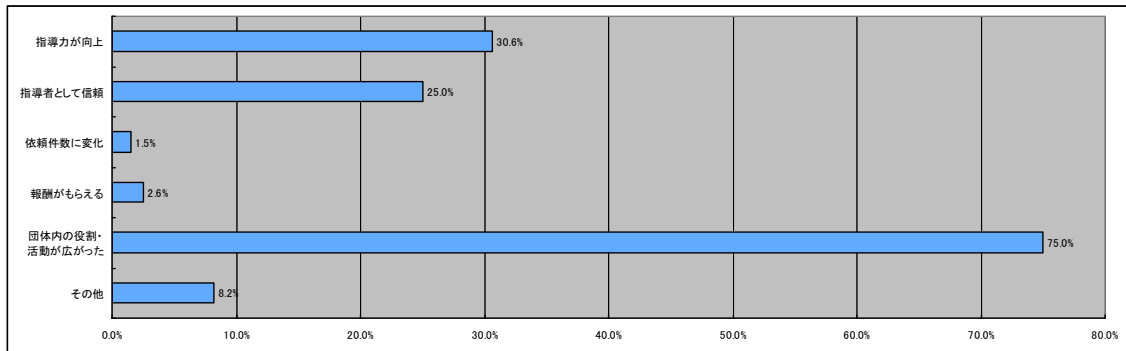


図 20 資格を取得した効果の理由

指導にあたり困っていることは、「忙しい」に次いで、「指導力が未熟」「技術不足」が挙げられました。技術や指導を含めた指導者のスキルを向上する機会を増やすことも必要と考えられます。さらに、集客や施設の不足、人間関係の調整等も指摘されました。

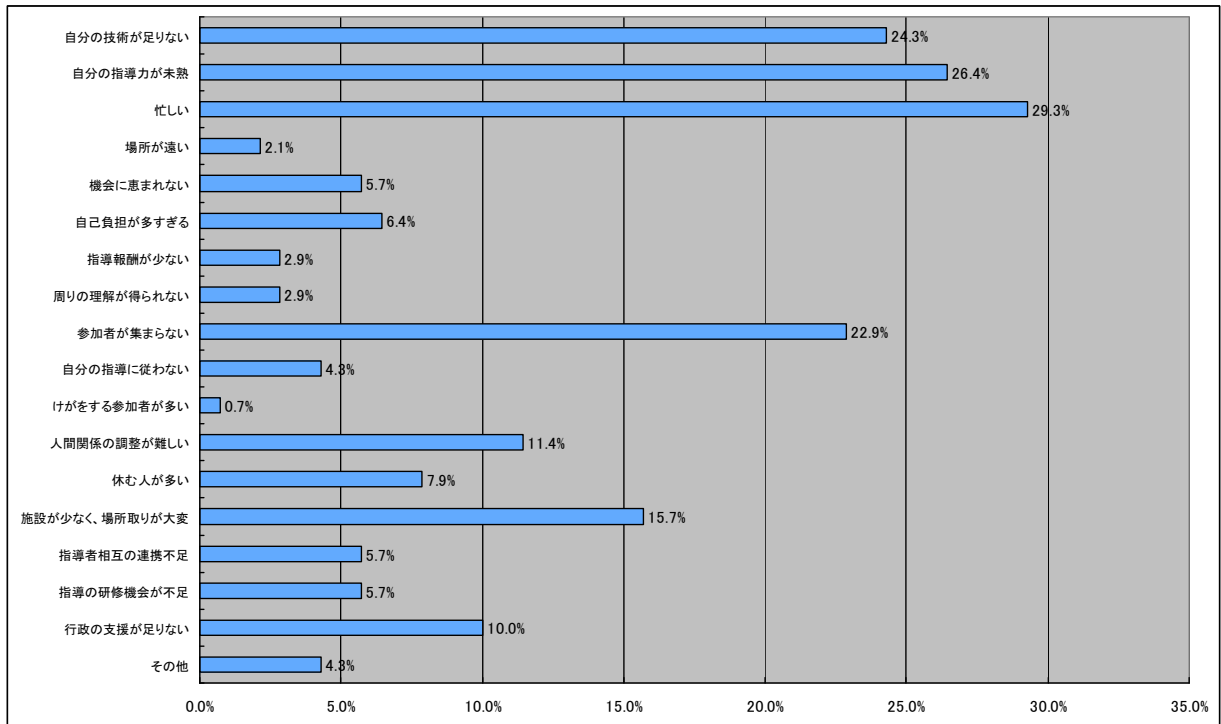


図 21 指導にあたり困っていること

今後さらに高めたい技術・知識・能力では、「健康づくりのための運動に関するスキル」「発達段階に応じた技術や理論・指導方法」が非常に重視されています。指導者のニーズに応じた講習会の開催などが求められています。

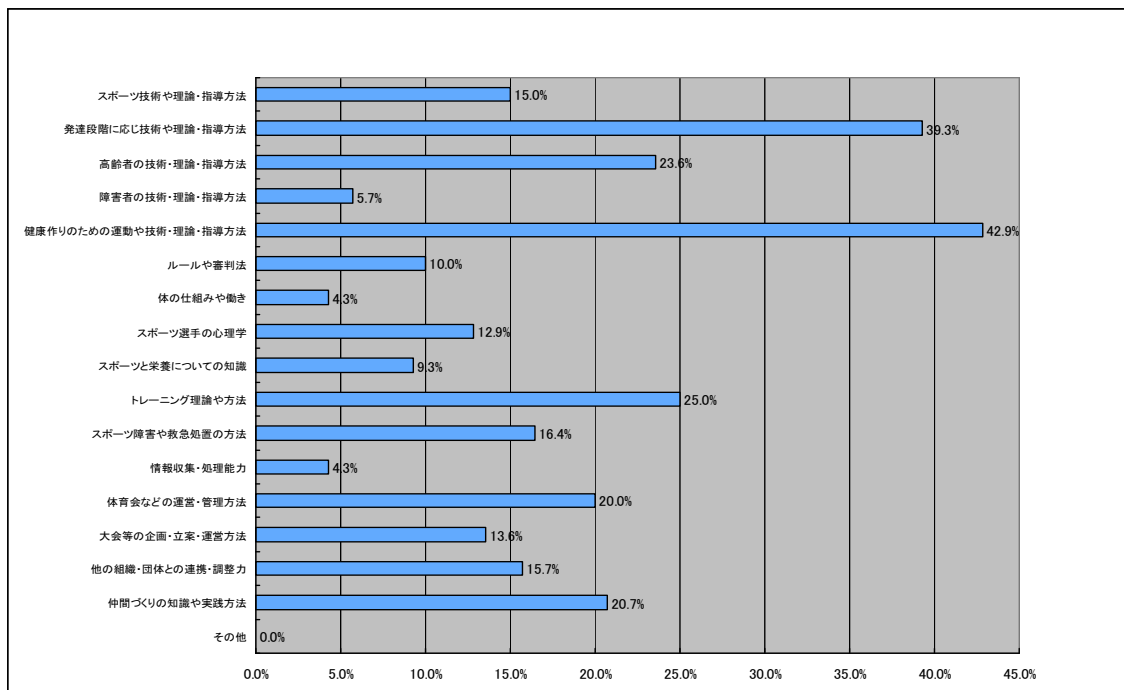


図 22 さらに高めたい技術・知識・能力

### ○地区体育会、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団の登録状況

地区体育会及び小学校区をエリアとして活動している総合型地域スポーツクラブ（総合型クラブ）は高知市体育会に登録することになっており、毎年、地区体育会及び総合型クラブから会員数やクラブ数の報告がなされています。

平成 24 年度の報告によれば、地区体育会及び小学校区をエリアとして活動している総合型クラブは 39 団体です。（小学校区は 42）

高知市体育会に加入している市民は 13,456 人で、高知市民のうち約 4%が高知市体育会の会員です。活動しているクラブの総数は 407 クラブで、7,289 人のクラブ員がおり、910 人の指導者が登録しています。高知市体育会への登録状況を見ると、クラブ数は平成 15 年度の 356 から平成 24 年度の 407 へ、クラブ員数も同様に 6,859 人から 7,289 人へ、指導者数は 698 人から 910 人へと増加しています。ただ、指導者数は平成 22 年度の 975 人をピークに減少が続いています。

活動しているクラブの種目は、バレーボールが 52 クラブで最も多く、次いでバドミントン 40 クラブ、ソフトバレーボール 38 クラブ、卓球 26 クラブ、スカッシュバレー 15 クラブなどです。

現在活動している 39 団体のうち、36 団体は毎年地区運動会を開催しています。地区体育会及び総合型クラブは、日常的なスポーツ活動の他に、地域の実態や特性に応じたスポーツイベントを行っているほか、地域のまちづくりイベントや防災活動に積極的に参画している団体、あるいはそのようなイベントを主催している団体もあります。

小学生のスポーツ少年団への登録者数は、2,600～2,900 人台で推移しており、加入率は 15%前後です。男子は約 20%が参加していますが、女子は約 6～7%にとどまっており、女子の加入率が低くなっています。

## 4 スポーツ施設

春野町、鏡村、土佐山村との合併により、高知市の公共スポーツ施設数は増加しました。高知市総合運動場、高知市東部総合運動場、針木運動公園等に加えて、城ノ平運動公園、土佐山運動広場、春野グラウンド、春野弘岡中福利厚生プール、春野ゲートボール場、土佐山西川複合集会所でも、スポーツ活動を行うことができるようになっていますが、スポーツ施設について不便を感じている市民は少なくありません。

「高知市民の健康とスポーツに関する意識調査」で、この1年間に運動や体操、スポーツ活動を実施して不便を感じたという市民に理由を聞いたところ、「場所・施設がない」という回答が56.6%で、最も多くなっています。

また、高知市のスポーツ振興のために重要と思われることについて、「身近なところで手軽に使える公共施設を整備する」を挙げた市民が55.7%で最も多く、次いで「施設の使用料金を安くする」が45.8%となっており、スポーツ施設の整備を希望する市民はたいへん多いと言えます。(p. 8の図-13参照)

その背景には、高知市内の学校体育施設を含む公共スポーツ施設の夜間や週末・休日の利用者がたいへん多く、各種大会やサークル活動・イベント等で飽和状態になっていることが挙げられます。

スポーツ施設を利用する際の条件については、「使用料が安いこと」が53.1%で最も多く、「家の近くにあること」44.6%が2番目に多い回答でした。他には、「適切な指導者がいること」「色々な設備が整っていること」「利用手続きが簡単なこと」を挙げた市民も多くなっています。

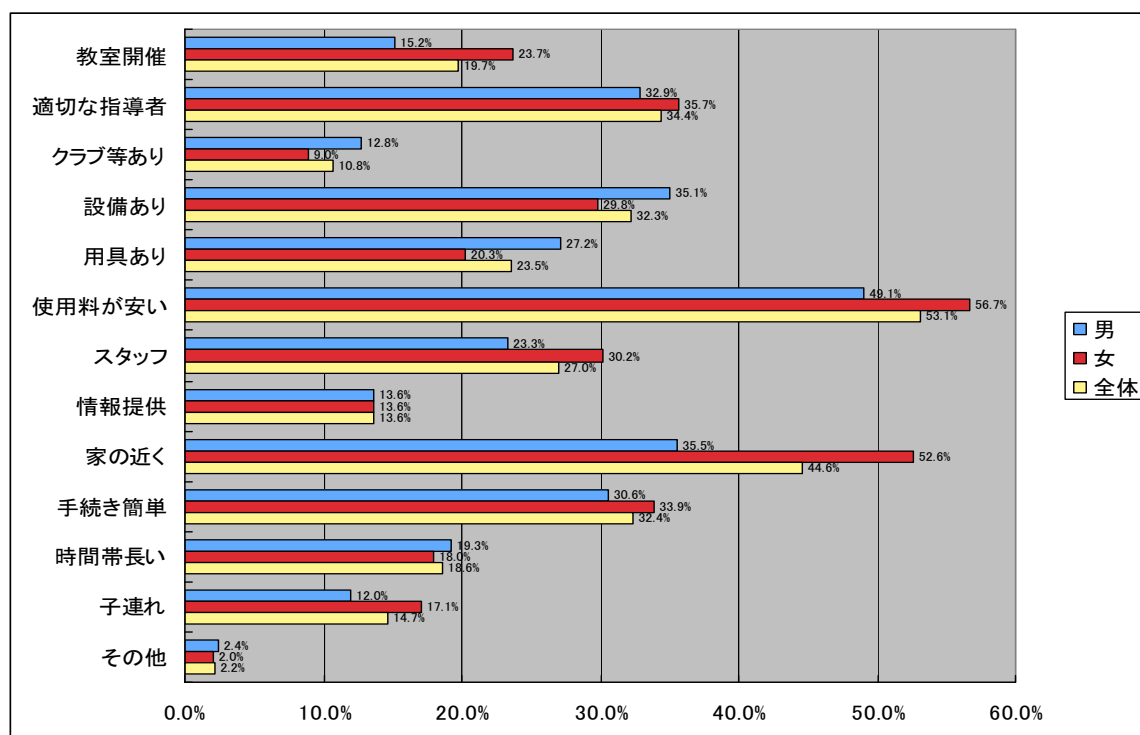


図 23 運動・スポーツ施設の利用条件

市町村合併により、利用できるスポーツ施設は増えましたが、近年、高知市中心部では新たなスポーツ施設の整備は進んでおらず、スポーツをしたいと思っても身近なところで手軽に利用できる場所がなかったり、あるいは使用料が高いと感じる施設しか利用できていなかったりという状況があります。スポーツ施設の整備の遅れが、高知市のスポーツ振興の阻害要因になっていることがわかります。

## 第3章 推進計画の基本方針と目標

### 1 計画の基本方針

この計画は、「スポーツ基本法」に基づく「スポーツ基本計画」と「高知県スポーツ推進計画」を参酌し、「2011 高知市総合計画」に示している生涯スポーツ分野の施策をより具現化するものとして策定したスポーツ推進計画です。計画策定にあたり、「高知市民の健康とスポーツに関する意識調査」、「高知市のスポーツ指導者に関する調査」、「スポーツ施設の現地視察調査」等を実施し、本市の現状や課題を十分に踏まえた計画を策定することに努めました。

本計画においては、市民一人ひとりがいつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも安全にスポーツ活動に親しむことができる生涯スポーツ社会の実現をめざして、生涯スポーツ活動の拠点となる地区体育会や総合型クラブに誰もが参加しやすい環境を整備するなど、「する」スポーツの振興に取り組みます。

また、トップアスリートの競技にふれる機会を提供するなど「みる」スポーツを充実させるとともに、指導者やスポーツボランティアを養成・確保するなど「ささえる」スポーツを推進します。

さらに、誰もが身近で気軽に利用できる「場所」の充実とニーズに応じた「情報」が得られる情報サービスの充実に取り組みます。

### 2 計画の目標

#### ○総合目標

市民一人ひとりがいつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも安全にスポーツ活動に親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備を推進し、国がスポーツ基本計画に掲げる「成人の週1回以上のスポーツ実施率が65%程度となること」を目標とします。なお、その第1段階として、計画期間中間年の平成30年度末までに50%以上になることを目指します。

#### ○個別目標

総合目標の達成を目指すために、基本方針に基づく個別目標を設定します。

- (1) 「する」スポーツを充実させるために、市民のライフステージ、ライフスタイルに応じたスポーツ機会の拡大を図るとともに、地区体育会や総合型クラブを活性化して市民の加入率を高めます。
- (2) 「みる」スポーツを充実させるために、トップアスリートの競技会にふれる機会や地域の身近な運動・スポーツに親しむ機会の拡大を図ります。
- (3) 「ささえる」スポーツを充実させるために、スポーツ指導者の養成と活躍する場及び機会の拡大を図るとともに、スポーツボランティア活動の普及・啓発を推進します。
- (4) スポーツ活動に気軽に利用できる「場所」を充実させるために、既存施設の利用・運営システムの改善・充実を図るとともに、新たな「場所」の拡大を図ります。
- (5) スポーツに関する「情報」を充実させるために、情報提供システムの改善・充実を図るとともに、情報内容の充実を図ります。



## 第4章 計画推進のための具体的施策

### 1 多様な参加ができる「する」スポーツの充実

#### ○市民が楽しみながら健康を維持・増進し得る運動・スポーツ環境の整備

2020年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決定したことを受け、競技スポーツのみならず、一般市民においても運動・スポーツ参加の機会増加が予測されます。生涯スポーツに必要な要素である、いつでも、どこでも、だれとでも、いつまでも、はもちろんのこと、生涯にわたって長期間運動・スポーツを実施することによる社会的効果あるいは経済的効果は極めて大きいと考えられます。

そこで、高知市は、ライフステージに応じたスポーツの推進において、性差や年代差を考慮した環境の整備に努めます。運動場所の確保など環境要因を考慮するとともに、個人のライフスタイルに応じて身近に実施できるスポーツ機会を提供します。行政のみならず、大学やスポーツ団体、民間企業等と連携・協働して、「する」スポーツを充実させることを今後の継続課題として示します。

- (1) 性別や年代等を考慮した運動・スポーツを中心とするヘルスプロモーションの観点から、市民の運動・スポーツ活動を支援します。現段階では、特に中年女性の健康感を高める具体的方策が喫緊の課題です。女性向けの運動・スポーツプログラムの充実や、女性が運動を長期間継続して実施するための方策を検討する必要性が高まっています。また、高齢者や障害者などを対象とした支援体制を検討します。
- (2) 市民の運動・スポーツに対するニーズを考慮したプログラムを提供します。従来の運動・スポーツに加え、「健康づくり」「楽しみ」をより一層重視した運動プログラムを展開します。スポーツ団体以外にも、レクリエーションや医療・福祉団体等に協力を要請します。さらに、高知市スポーツ推進指導員・健康運動指導士・健康運動実践指導者・理学療法士・スポーツ専攻学生が、若手指導者として活躍できる場を拡充します。
- (3) コミュニティにおける運動・スポーツの情報支援を行います。長期にわたって運動・スポーツを継続することができるように、コミュニティを包含した環境を整備します。地区体育会や総合型クラブ、近隣住民が自主的に行うサークル活動等が、合理的かつ効率的に運営できるための情報支援を行います。
- (4) 運動・スポーツを実施する場所と機会を確保します。学校体育施設に加え、コミュニティ施設や公民館等の公共施設を活用します。利用団体あるいは個人の公平性を確保し、バランスのとれた施設利用を目指します。広報にも一層力を入れ、運動・スポーツの普及に努めます。
- (5) トップアスリートと一緒に運動・スポーツを実施できる機会を提供します。第一線で活躍する現役の選手や一般市民のスポーツ活動を支援している元選手(コーチ・監督等を含める)を招聘し、子どもから大人まで交流することができるイベントやスポーツ教室等を企画・運営します。

## ○地区体育会や総合型クラブの振興

高知市は、生涯スポーツ社会を実現するため、小学校区ごとに地区体育会を設置し、スポーツ推進委員やスポーツ推進指導員を配置して市民スポーツの振興を図ってきました。

この方針をさらに進め、地区体育会や総合型クラブへの市民の加入率を平成 35 年までに 10%、参加率を 20%とすることを目標とします。そのために、高知市は地区体育会や総合型クラブと協働して、以下のような施策を進めます。

- (1) 地区体育会や総合型クラブは、校区内の地域住民のニーズを把握し、ニーズに応える事業を企画・実施します。
- (2) 地区体育会や総合型クラブは、いきいき百歳体操やかみかみ百歳体操、健康体操、ヨガ等の健康づくりを目指す体操や運動の教室やイベント、サークルを開催します。
- (3) これらの体操や運動を、従来の学校体育施設に加えて、校区内のコミュニティ施設や公民館等の公共施設でも実施します。
- (4) 地区体育会や総合型クラブは、若い世代や子育て世代の参加を促すことを目的に、親子や家族で参加できたり、特定の年齢層や性別等をターゲットとしたスポーツプログラムやスポーツ教室、スポーツイベント等を開催します。
- (5) 地区体育会や総合型クラブは、町内会やまちづくりなどを目指して活動している地域の諸団体と連携し、多様な事業を企画・実施して、地区体育会や総合型クラブの認知度を高めます。
- (6) 地区体育会や総合型クラブは、スポーツ少年団で活動する子どもたちの健全育成に努め、子どもたちのスポーツへの関心を高めるような事業を実施するとともに、スポーツ少年団に加入していない子どもたちの受け皿となるよう、イベントや教室を実施します。
- (7) 高知市は、地区体育会や総合型クラブの広報を行い、健康づくり、人づくり、まちづくりを目指す地域の身近なスポーツクラブとしての認知度を上げるように、広く市民に周知します。

また、上記のような地区体育会や総合型クラブの新しい取り組みに対して指導助言を行うとともに、健康づくりにつながる体操や運動の指導者講習会を実施してスポーツ推進委員やスポーツ推進指導員のスキルを高めたり、事業の充実のための支援を行います。

## 2 魅力ある「みる」スポーツの充実

### ○トップアスリートの競技にふれる機会の提供

「みる」スポーツとは、観戦する、あるいは鑑賞する行為によるスポーツの楽しみ方であり、豊かなスポーツ文化享受の一形態として定着しつつあります。より高いレベルに挑戦する競技スポーツにふれることで得られる感動やあこがれが、強い動機づけとなって、市民の生涯スポーツのすそ野を広げていきます。その意味で「みる」スポーツは、競技スポーツと生涯スポーツをつなぐ架け橋であるといえる

でしょう。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、市民のスポーツ観戦に関する意識の高まりが予想されます。高知市は、「みる」スポーツを推進することにより、トップスポーツと地域スポーツの連携・協働を促し、高知市スポーツ界の「好循環」を創出する契機につなげていきます。

- (1) 各関係機関と連携しながら、高知市のスポーツ施設を利用した国際大会・全国大会レベルのスポーツイベントの開催誘致を図ります。また、海外・国内のプロスポーツ・アマチュアスポーツの合宿やキャンプ等の誘致活動を強化し、市民の「みる」機会を拡充します。
- (2) 様々な機会に高知市を訪れるトップアスリートと市民が直接交流できるようなふれあいイベントや、より高いレベルのパフォーマンスを間近で見てスポーツの魅力を感じることができるといったスポーツ指導教室等の開催を積極的に企画・運営します。
- (3) 地域密着型スポーツを市民が愛着をもって応援できるように、スポーツ団体と地域の連携・協働のあり方を模索します。地元の選手や指導者と市民が交流できるような地域に根差した活動を通じて、一体感と活力のある地元スポーツ文化の醸成を図ります。
- (4) 多人数が集まって一緒に観戦することにより、劇場空間の臨場感や観戦者同士（あるいは観戦者と選手）の一体感が生まれます。このような「みる」スポーツならではの醍醐味を市民が享受する機会の提供に努めます。
- (5) 地区体育会や総合型クラブにおいて、スポーツ情報を共有するための仕組みづくりを行い、トップアスリートの競技にふれる機会に関する情報提供を活性化します。また、地区体育会や総合型クラブ内のインナーコミュニケーションの充実を図ることで、子どもから高齢者まで、会員同士によるスポーツ観戦の機会を増やします。

### 3 感動を分かち合う「ささえる」スポーツの充実

高知市は、昭和52年から「社会体育専門指導者養成教室」（現在のスポーツ推進指導員養成教室）を主催し、独自に地域スポーツ指導者を養成してきました。資格を取得した市民たちは、スポーツ推進委員やスポーツ推進指導員となって、地区体育会を中心とする地域スポーツを担い、高知市の生涯スポーツの推進に大きな役割を果たしてきました。

しかし、社会状況が変化する中で、指導者たちの高齢化・固定化が課題となっています。より若い世代の指導者が地域スポーツを担い、活躍することが期待されています。

地区体育会や総合型クラブの持続的な発展を目指して、スポーツ推進指導員のさらなる養成とスキルアップを図ります。

また、障害者スポーツの推進を担う人材を養成し、活躍の場を広げます。

#### ○スポーツ指導者の養成と活躍する場・機会の充実

- (1) 地区体育会や総合型クラブと協働して、より若い世代のスポーツ推進指導員の養成に努めます。

- (2) スポーツ推進委員やスポーツ推進指導員の研修の機会を充実させ、市民の多様なニーズを把握し、ニーズに応える指導ができるように指導者のスキルを高めます。
- (3) スポーツ推進指導員資格を有しているにもかかわらず、地域のスポーツ活動に関わっていない指導者に積極的に働きかけて、活動する場と機会を充実させます。
- (4) 障害者のスポーツ指導を適切に行うことができる指導者の養成に努めるとともに、障害者スポーツセンターとの協働により、指導者の効果的な活用方策について検討し実施します。

#### ○スポーツボランティア活動の啓発と普及

地域スポーツの新たな担い手としてのスポーツボランティアの意識を啓発し、市民がボランティアとして参画できる環境整備に努めます。

- (1) 「新しい公共」を担う NPO 等の市民団体や町内会などの地域組織、大学・研究機関、スポーツ団体、民間事業者等との連携を図りつつ、スポーツボランティアに関する事例の紹介などの普及・啓発活動を通して、スポーツボランティア活動に関する市民の意識や関心を高めます。
- (2) 市民が、地区体育会や総合型クラブ等の地域のスポーツ組織の運営に参画したり、地区運動会やスポーツ大会等のスポーツイベントの運営、スポーツ指導等にボランティアとして参画できる環境づくりと情報提供を行います。
- (3) 障害者スポーツにおいては、障害のある人もない人もともにスポーツやレクリエーションを楽しむことができるようなボランティア活動を推進します。

## 4 気軽に利用できる「場所」の充実

#### ○公共スポーツ施設の整備と学校体育施設開放事業の拡充

南海トラフ地震の発生の確率が年々高まっています。関係各課と協働して、高知市が管理するすべてのスポーツ関連施設の安全を確保するとともに、市民の避難場所としての機能を高めておく必要があります。

高知市民のスポーツ参加機会の拡大とスポーツ実施率の向上を目指して、子どもから高齢者まで、障害のある方などの多様なニーズに応えられるように、地域バランスなど、地域の特性を配慮した整備を進めます。

また、スポーツ施設の付帯設備の整備を進めるとともに、老朽化した施設の改修・修繕や、施設へのアクセスの改善に努めます。

従来のスポーツ施設の他に、市民に身近な施設としてのふれあいセンターや公民館等の活用を進めるとともに、民間との連携・協力体制を構築して、市民が利用可能な施設の充実を図ります。

- (1) 南海トラフ地震に備えて、関係各課と協力して、スポーツ関連施設の安全性と、発災時の避難場所としての機能を高めます。

- (2) 市民のライフスタイル、生活時間の変化などにより多様化するニーズに応えるため、指定管理者と連携して、スポーツ施設の開所時間の拡充や無料開放日の設定など、管理・運営でのサービスを向上させます。
- (3) 平日の日中など、施設が比較的空いている時間帯を活用して、高知市民のニーズに対応したスポーツ教室の開設や、誰もが気軽に参加しやすい特色あるプログラムを提供します。
- (4) 高知市が管理するスポーツ施設の他に、市民に身近な施設としてのふれあいセンターや公民館等の活用や、民間スポーツ施設、企業の福利厚生施設、大学の施設など、民間との連携・協力体制を構築して、市民が利用可能な施設の充実を促進します。
- (5) 学校体育施設開放事業の課題を整理し、利用者の利便性を高めるとともに、小グループや家族でも利用できるようなプログラムや教室・イベントを提供します。
- (6) 高知県立障害者スポーツセンターと連携して、障害のある人も身近なスポーツ施設で活動できるよう、施設（観客席、更衣室、通路、トイレなど）のバリアフリー化やユニバーサルデザインの理念に沿った整備を進めます。

## 5 スポーツを楽しむきっかけとなる「情報」の充実

スポーツに関する豊富な情報にふれることは、スポーツに親しむきっかけとなり、スポーツへの関心や意欲を高めることにもつながります。そのため、市民がニーズに応じた幅広いスポーツ関連情報を容易に入手できる環境づくりが必要です。

### ○スポーツ情報システムの改善・充実

スポーツへの関わり方が多様化している現在、市民が求める情報も多岐にわたっています。そのため、市民のニーズに即した幅広い情報の提供に努めます。また、市民が情報を得る手段も多岐にわたっていることから、ライフスタイルに応じた情報提供ができるように、情報システムの改善・充実を図ります。

- (1) 施設利用に関することからスポーツ教室・イベント、サークル活動、健康やスポーツに関する豆知識など、多様化するスポーツニーズに応えるため、高知市のホームページのスポーツに関する情報の充実と分散しているスポーツ関連情報の一元化を図ります。
- (2) すべての市民がインターネットを利用することはできません。従来から利用されている公報誌、ポスター、マスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）など、市民のライフスタイルに応じた手段を用いて、情報提供の充実を図ります。
- (3) Twitter や Facebook、LINE に代表されるソーシャルメディアを活用するなど、効果的な情報提供・発信を行い、市民のスポーツへの関心や主体的な取り組みを促進します。

## ○市民によるスポーツ情報の提供

スポーツの情報を受け取るだけでなく、自らも情報を提供して相互に交流することも、スポーツへの関わり方や楽しみ方のひとつになります。市民の情報を交流する場となる市民参加型の情報システムの構築を図ります。

- (1) 地域のスポーツクラブや地区体育会の活動の紹介、地域で開催するスポーツイベントや行事の案内、参加の呼びかけなどを掲載できるようにします。
- (2) スポーツ大会・イベントの観戦レポートや参加レポートを掲載できるようにします。

## 資料編

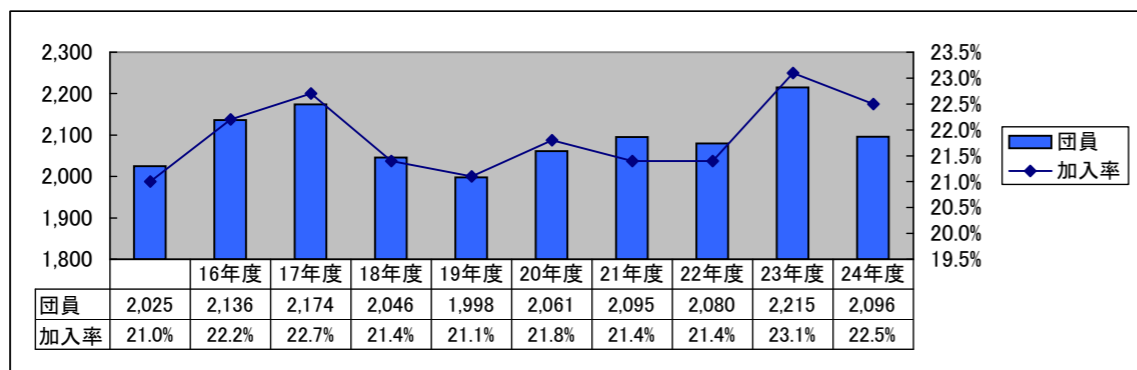
地区体育会一覧（平成24年度）

NO	地区名	中学校	人口	会員数	クラブ数	クラブ員数	指導者数
1	新堀	城東	5,578	196	10	163	33
2	江陽		10,779	245	7	245	49
3	昭和		14,834				
4	潮江	潮江	9,890	286	11	258	28
5	潮江東		8,652	125	6	101	14
6	潮江南		8,029	255	12	243	12
7	鴨田	西部	16,985	403	16	339	64
8	神田		13,492	500	14	197	33
9	朝倉第二	朝倉	16,399	650	5	105	50
10	朝倉	朝倉・旭	11,461	247	12	211	36
11	旭	旭	11,821	122	5	110	12
12	横内		8,220	180	10	170	10
13	行川	行川	414				
14	第四	城西	5,407	166	7	118	10
15	第六		3,562	-	-	-	-
16	旭東		10,477	3,100	16	206	20
17	追手前	城北	2,549	162	9	162	-
18	小高坂		8,655	349	18	329	20
19	初月		13,195	360	14	320	40
20	一ツ橋	城北・愛宕	6,795	246	12	234	12
21	江ノ口	愛宕	6,914	330	10	189	35
22	秦		12,605	223	12	198	25
23	久重	愛宕・一宮	1,191	89	7	87	2
24	泉野	愛宕・一宮	11,838	135	10	126	9
25	布師田	一宮	1,595	160	7	140	20
26	一宮		9,395	132	7	114	18
27	一宮東		5,972	283	12	253	30
28	大津	大津	10,591	317	14	249	35
29	五台山	青柳	2,839	850	8	107	-
30	高須		13,131	244	9	244	-
31	介良	介良	7,613	336	18	317	19
32	介良潮見台		6,000	280	13	218	47
33	三里	三里	6,968	329	19	275	37
34	十津		5,714	237	11	202	25
35	横浜	横浜	8,570	345	16	303	42
36	横浜新町		7,455	315	12	229	64
37	長浜	南海	12,582	169	11	161	18
38	浦戸		1,052	750	8	91	15
39	鏡	鏡	1,487	88	7	65	3
40	土佐山	土佐山	1,045	19	-	-	-
41	春野	春野	16,120	233	12	210	23
	小学校区ごとに 39 体育会設置		337,871	13,456	407	7,289	910

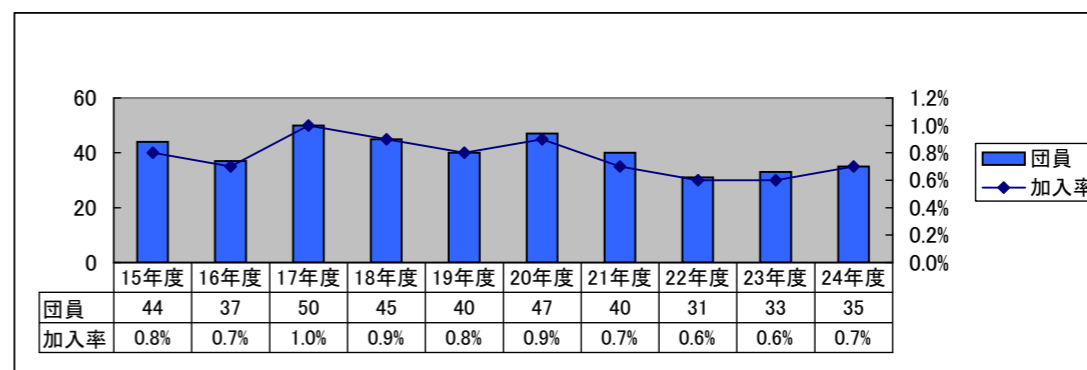
※ 平成24年度高知市体育会登録カードを元に作成しています。

# 高知市スポーツ少年団加入数・加入率

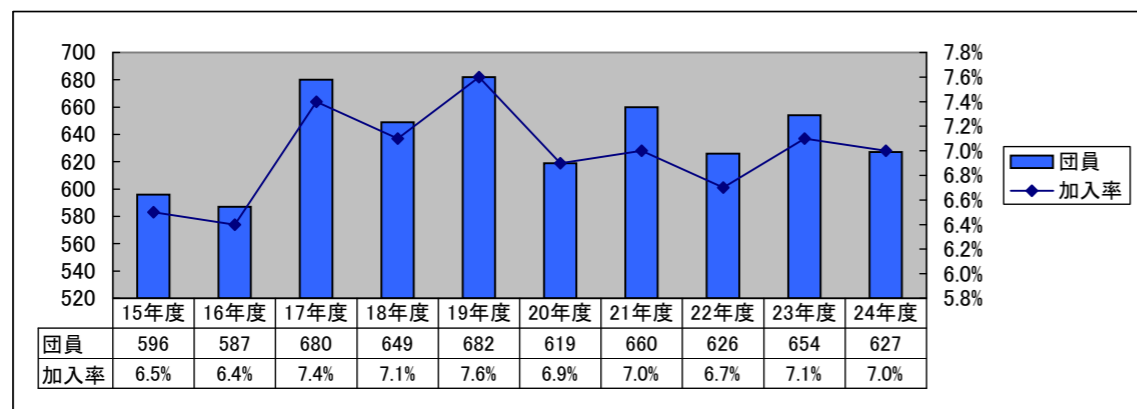
		15年度			16年度			17年度			18年度			19年度			20年度			21年度			22年度			23年度			24年度		
		団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率	団員数	児童生徒数	加入率
男	小学生	2,025	9,646	21.0%	2,136	9,625	22.2%	2,174	9,562	22.7%	2,046	9,541	21.4%	1,998	9,474	21.1%	2,061	9,474	21.8%	2,095	9,777	21.4%	2,080	9,724	21.4%	2,215	9,597	23.1%	2,096	9,321	22.5%
	中学生	44	5,269	0.8%	37	5,167	0.7%	50	5,226	1.0%	45	5,237	0.9%	40	5,246	0.8%	47	5,461	0.9%	40	5,388	0.7%	31	5,324	0.6%	33	5,113	0.6%	35	5,173	0.7%
	高校生以上	8			3			1			2			8			3			3			2			1			3		
	計	2,077			2,176			2,225			2,093			2,046			2,111			2,138			2,113			2,249			2,134		
女	小学生	596	9,239	6.5%	587	9,189	6.4%	680	9,193	7.4%	649	9,108	7.1%	682	9,020	7.6%	619	9,020	6.9%	660	9,441	7.0%	626	9,341	6.7%	654	9,227	7.1%	627	8,978	7.0%
	中学生	40	5,304	0.8%	23	5,176	0.4%	24	5,259	0.5%	17	5,325	0.3%	16	5,221	0.3%	32	5,296	0.6%	34	5,189	0.7%	16	5,194	0.3%	13	5,168	0.3%	18	5,106	0.4%
	高校生以上	3			2			3			2			3			1			1			2			5			5		
	計	639			612			707			668			701			652			695			644			672			650		
全体	小学生	2,621	18,885	13.9%	2,723	18,814	14.5%	2,854	18,755	15.2%	2,695	18,649	14.5%	2,680	18,494	14.5%	2,680	18,246	14.7%	2,755	18,073	15.2%	2,706	17,804	15.2%	2,869	17,607	16.3%	2,723	17,242	15.8%
	中学生	84	10,573	0.8%	60	10,343	0.6%	74	10,485	0.7%	62	10,562	0.6%	56	10,467	0.5%	79	10,757	0.7%	74	10,577	0.7%	47	10,518	0.4%	46	10,281	0.4%	53	10,279	0.5%
	高校生以上	11			5			4			4			11			4			4			4			6			8		
	計	2,716			2,788			2,932			2,761			2,747			2,763			2,833			2,757			2,921			2,784		
	団数	95			98			105			110			110			114			115			114			116			114		



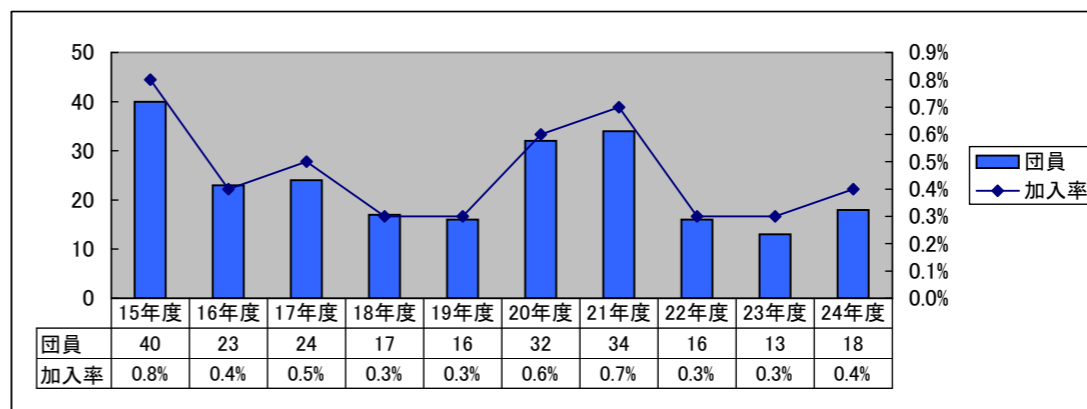
小学生男子



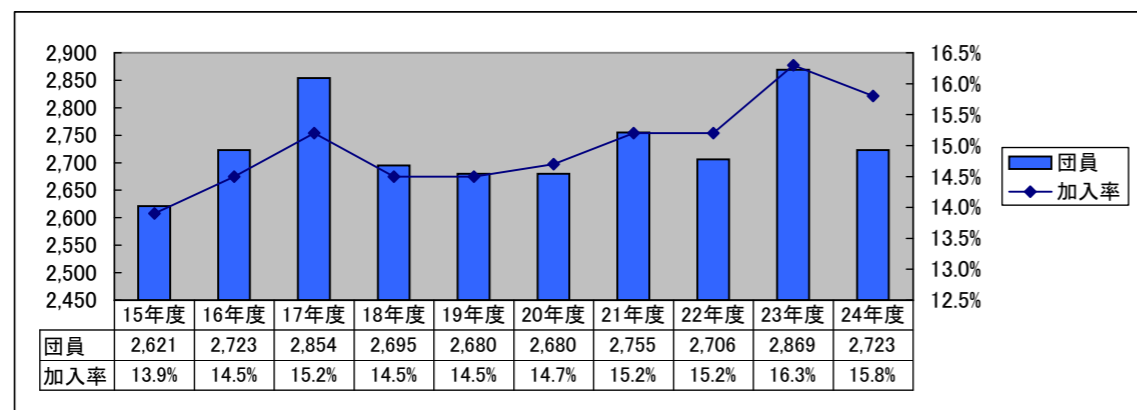
中学生男子



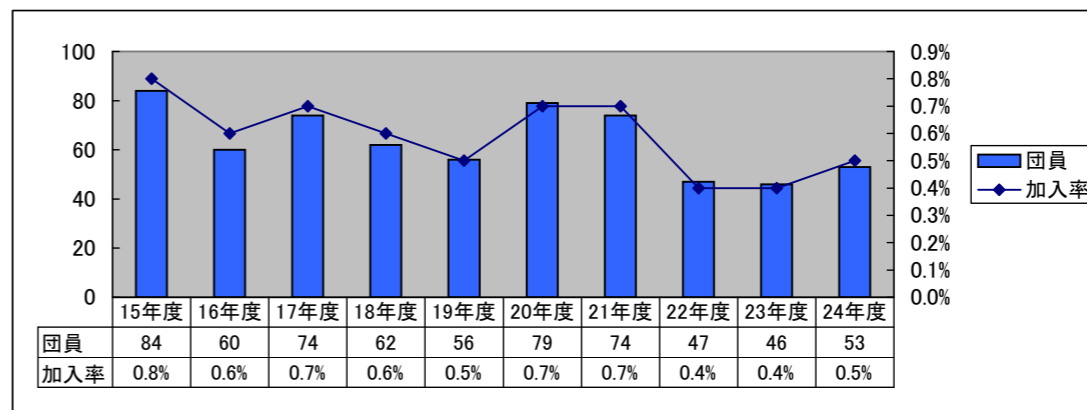
小学生女子



中学生女子



小学生全体



中学生全体



## 高知市のスポーツ施設及び公園施設所在図



- |           |         |                |
|-----------|---------|----------------|
| ① 総合運動場   | ⑨ 丸池公園  | ⑰ 荻公園          |
| ② 東部総合運動場 | ⑩ 青柳公園  | ⑱ 神田公園         |
| ③ 針木運動公園  | ⑪ 種崎公園  | ⑲ 潮江下水処理場      |
| ④ 城ノ平運動公園 | ⑫ 南久保公園 | ⑳ 瀬戸下水処理場      |
| ⑤ 土佐山運動広場 | ⑬ 瀬戸公園  | ㉑ 春野グラウンド      |
| ⑥ ヨネッツこうち | ⑭ 大谷公園  | ㉒ 春野弘岡中福利厚生プール |
| ⑦ 青年センター  | ⑮ 高須公園  | ㉓ 春野ゲートボール場    |
| ⑧ 城西公園    | ⑯ 仁井田公園 | ㉔ 土佐山西川複合集会所   |

## 1 総合運動場

名 称	施 設 概 要
① 相 撲 場	1 F (練習土俵2面 合宿所) 2F (本土俵1面, 桟席500席)
② 陸 上 競 技 場 (りょうまスタジアム)	第2種公認陸上競技場(全天候400mトラック×8レーン・フィールド100m×53m天然芝) 自転車走路(500mバンク)併設, 宿泊棟, トレーニング走路
③ 野 球 場	両翼96m, センター121m 夜間照明付
④ テ ニ ス コ ー ト	全天候砂入り人工芝 夜間照明付(7面)
⑤ 補 助 グ ラ ウ ン ド	夜間照明付 ソフトボール2面, 軟式野球1面, サッカー1面 他
⑥ 多 目 的 ド ー ム (よさこいドーム)	ロングパイル人工芝 軟式野球(内野練習程度), ソフトボール, サッカー, フットサル ハンドボール, グラウンドホッケー, グラウンドゴルフ
⑦ ス ケ ー ト ボ ー ド 場	スケートボード, インラインスケート
⑧ 総 合 体 育 館	主競技場(バレーボール2面, バスケットボール2面, バドミントン8面) 補助競技場(バレーボール1面, バスケットボール1面, バドミントン3面) 温水プール(8コース), 雨天練習場, プレイルーム, トレーニング室, ランニング走路, 会議室

## 2 東部総合運動場

名 称	施 設 概 要
① 多目的グラウンド	軟式野球2面, ソフトボール4面
② 体 育 セ ン タ ー	バレーボール2面, バドミントン6面, バスケットボール1面
③ 野 球 場	両翼94m, センター120m
④ 打 撃 ・ 投 球 練 習 場	投球練習場8面, 打撃練習場6面
⑤ テ ニ ス コ ー ト	全天候砂入り人工芝16面 (8面夜間照明付)
⑥ くろしおアリーナ	25m温水プール(通年) 9コース(観客席252席) 50mプール(冬季体育館仕様 アリーナ面積2,500㎡)10コース(観客席2,000席) トレーニング室, ランニング走路, 会議室

## 3 針木運動公園

名 称	施 設 概 要
① グ ラ ウ ン ド	ソフトボール2面, 軟式野球1面
② テ ニ ス コ ー ト	5面

## 4 城ノ平運動公園

名 称	施 設 概 要
① ソフトボール専用球場	夜間照明付 ソフトボール1面(両翼70m, センター75m, 観覧席750人)
② 多目的広場	夜間照明付 ソフトボール1面, 軟式野球1面, ゲートボール7面 他

## 5 土佐山運動広場

名 称	施 設 概 要
① ソフトボール場	夜間照明付 ソフトボール2面, 軟式野球1面, サッカー1面 他

## 6 スポーツ振興課所管施設

名 称	施 設 概 要
土佐山西川複合集会所	バレーボール1面
春野グラウンド	ソフトボール2面, サッカー1面
春野弘岡中福利厚生プール	25mプール(6コース) ~8/31開設
春野ゲートボール場	ゲートボール場4面

## 7 その他の施設

### (1) 青年センター

名 称	備 考
ア リーナ	バスケットボール1面, バレーボール1面, バドミントン3面 ※高知市教育研究所との複合施設 (アリーナも複合施設内に含まれる)
テ ニ ス コー ト	砂入り人工芝1面
グ ラ ウ ン ド	サッカー1面

### (2) 公園内施設 (所管=みどり課)

公園名	位 置	用 途
城西	丸ノ内1丁目5-2	80m×80m (ソフトボールもしくは少年野球)
丸池	丸池町9	90m×90m (ソフトボールもしくは少年野球)
青柳	稲荷町1-3	70m×70m (ソフトボールもしくは少年野球)
種崎	種崎777-3	55m×55m (ソフトボールもしくは少年野球)
南久保	南久保128	60m×55m (ソフトボールもしくは少年野球)
瀬戸	横浜新町5丁目33	80m×80m (ソフトボールもしくは少年野球)・全天候テニス2面
大谷	大谷公園町16-85	75m×75m (ソフトボールもしくは少年野球)
高須	葛島3丁目11	75m×75m (ソフトボールもしくは少年野球)
仁井田	仁井田2252-2	65m×65m (ソフトボールもしくは少年野球)
萩	新田町16	90m×90m (ソフトボールもしくは少年野球)
神田	神田1338-3	80m×80m (ソフトボールもしくは少年野球)・テニス1面

### (3) 公共施設付帯施設

施設の名称	所 管	用 途
潮江下水処理場	下水処理場管理課 (潮江下水処理場)	ソフトボール1面, テニスコート2面, ゲートボール6面
瀬戸下水処理場	下水処理場管理課 (瀬戸下水処理場)	多目的コート1面 (テニス・バスケット・バレー)
ヨネッツこうち	清掃工場	プール (エクササイズプール・温浴プール・子どもプール・ウォータースライダー) トレーニング室

## 高知市の障害者スポーツの現状

高知市には、障害者スポーツセンターが春野町にあり、障害のある方がスポーツを行うには比較的恵まれた環境にあります。

障害者スポーツセンターでは、障害のある方も地域住民の方も参加する総合型スポーツクラブが活動しており、「ささえ」だけではなく、互いに学びあいながら、共にスポーツを楽しんでいます。こうした活動の中で、特に子どもたちは障害のある方々との活動から、多くの事を自然に吸収しています。

例えば、よくスポーツ嫌いの原因で言われる、「上手くできないから恥ずかしい」といった感覚はこのクラブにはありません。失敗はして当たり前！失敗が参加者を和ませ楽しませる「笑い」に変わることはあっても、劣等感に変わることはありません。そして、障害のある方が、楽しみながらも一生懸命にスポーツに取り組む姿は、人間関係が希薄になり、人前で自己表現をすることが苦手になってきている今の子どもたちに、多くのことを伝えてくれているように感じています。

このように、障害のある方と共にスポーツを楽しむことによって、障害のない方はたくさんのことを学び、人間力の向上などに繋がっています。

高知市には、約2万人の障害者手帳を持った方がいらっしゃいますが、この中で、スポーツに親しむことができています方はまだほんの一部であり、大きな課題の一つです。今後、障害のある方がもっと気軽にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域がより良く変わっていくためにも、居住する地域で、障害のある方もない方も一緒になって活動していくことのできる環境づくりが大切です。

### 特色ある取組み



総合的な学習の時間へ、障害当事者を講師として派遣する『障害者スポーツ体験教室』



高知市との共催による『カヌー教室』



幻想的な海の世界が体験できる『パリアフリーダイビング体験教室』



地域コミュニティの活性化を目的とした『夏祭り』

### 障害者スポーツセンター利用者数

利用者	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
障害者	13,498	13,920	12,564	12,778	15,173	17,675	17,725	18,528	18,434	18,393	16,786	18,123	19,212	13,102	23,673	24,935	23,460
ボランティア・介助者	2,175	3,514	4,316	4,872	4,926	5,954	5,937	5,318	6,391	6,504	4,928	7,123	14,564	8,792	13,502	13,424	17,370
有料利用者	3,309	4,742	7,233	8,401	8,661	9,505	8,639	7,395	7,643	7,901	9,950	12,438	6,632	2,131	6,530	7,093	5,461
合計	18,982	22,176	24,113	26,051	28,760	33,134	32,301	31,241	32,468	32,798	31,664	37,684	40,408	24,025	43,705	45,452	46,291

## 第4次高知市スポーツ推進計画策定経過

期 日	内 容
4月25日	≪第1回策定委員会≫ ・策定委員会の経過説明 ・委員長、副委員長の選任について ・高知市のスポーツの現状について ・計画策定の今後の取組みと日程について
5月14日	≪第2回策定委員会≫ ・アンケートの実施方法、調査項目について
6月18日	≪第3回策定委員会≫ ・アンケートの実施方法、調査項目について
7月23日	≪第4回策定委員会≫ ・アンケートの調査項目について
8月7日	≪市内施設現地視察調査≫ ・針木、城ノ平、土佐山、東部
8月15日	≪第5回策定委員会≫ ・市民意識調査項目の最終確認 ・指導者対象調査項目について ・市内施設視察の報告
8月26日～30日	≪アンケート実施≫ ・市民意識調査
9月3日	≪第6回策定委員会≫ ・市民意識調査の実施報告 ・指導者対象調査項目の最終確認
9月17日～30日	≪アンケート実施≫ ・指導者対象調査
10月1日	≪第7回策定委員会≫ ・指導者対象調査の実施報告 ・市民意識調査の集計報告
11月5日	≪第8回策定委員会≫ ・市民意識調査報告書について
11月27日	≪第9回策定委員会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」骨子について ・指導者対象調査報告書について
12月18日	≪第10回策定委員会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」について
1月7日	≪第11回策定委員会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」について
1月14日	≪第12回策定委員会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」について
1月17日	≪第1回スポーツ推進審議会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」中間報告
1月21日	≪第13回策定委員会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」について
1月24日～2月14日	パブリック・コメントの実施 (※結果:意見提出なし)
1月28日	≪第14回策定委員会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」について
2月27日	≪第15回策定委員会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」最終校正
3月10日	≪第2回スポーツ推進審議会≫ ・「第4次高知市スポーツ推進計画(案)」報告
3月18日	「第4次高知市スポーツ推進計画」答申

高知市スポーツ推進審議会委員

氏 名	所属・役職名	備考
神家 一成	高知大学教育学部教授	会長
清原 泰治	高知県立大学地域教育研究センター教授	副会長
蛭子 博子	高知市スポーツ推進委員	
大坪 豊寿	田中整形外科病院管理栄養士	
小野 剛	高知市小学校体育連盟会長	
葛目 憲昭	高知県体育協会専務理事	
小林 順一	高知県立障害者スポーツセンター所長	
田所 和仁	高知地区中学校体育連盟会長	
谷岡 博志	高知県高等学校体育連盟高知支部長	
濱田 美穂	高知工科大学共通教育教室教授	
細川 喜弘	高知新聞社運動部長	
山崎 誠子	ミセススイミングクラブ代表	
山本 英作	高知学園短期大学准教授	
常行 泰子	高知大学教育学部講師	臨時委員
片岡 優世	一般社団法人U-プロジェクト	臨時委員

第4次高知市スポーツ推進計画策定委員

氏 名	所属・役職名	備考
神家 一成	高知大学教育学部教授	会長
清原 泰治	高知県立大学地域教育研究センター教授	副会長
山本 英作	高知学園短期大学准教授	
常行 泰子	高知大学教育学部講師	
片岡 優世	一般社団法人U-プロジェクト	